

登場人物の生き方を通して、人間の在り方について関心を深める

－『史記』を味わい、表現する－

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 漢文
- 3 教材名 史記「項王自刎」
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	①単元の目標		
	<p>ア 『史記』の持つ魅力を味わい、漢文の世界に親しみを感じようとする。 (興味・関心・態度)</p> <p>イ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。(読む能力) (ウ)</p> <p>ウ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解することができる。 (知識・理解) (ア)</p>		
②単元の目標設定の理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象となる生徒たちの多くは古典に対しての苦手意識をもち、授業に対して受け身の姿勢が顕著である。そのため、教材を深く読むことなく、板書を書き写すことに終始する生徒が少なくない。そうした生徒の苦手意識や受け身の姿勢からの脱却を図るために、まずは本文を繰り返し音読することで漢文のリズムを体得させたい。更に、深く読むことで登場人物の生き方を通して、自らの生き方を振り返らせたい。 ・ 今回対象となる二年生の生徒は普通科に所属している。多くの生徒が卒業後は四年制大学や短期大学への進学を希望している。その中で進路選択に悩む者も多い。この教材のロールプレイ化を通して、自らの生き方を見つめることで、進路選択の手助けになるように指導に臨みたい。 			
③中心となる学習活動			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典に即したロールプレイ (ウ：古典に表れた人間の生き方や考え方について話し合う言語活動) 			
④言語活動の工夫			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典 B の言語活動例ウは「古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠に話し合うこと。」であり、この活動例をロールプレイで実践する。 ・ 一人で考えて自分の考えを書く際には、消極的な姿勢であることが多かった。そこで、今回の単元では初めからグループ活動を行い、積極的に意見を交流することで考える意欲を高揚させるようにする。 ・ ロールプレイをし、現代語訳を確認するに留まらず、単元の最後に項王の生き方と自分の生き方を比較してまとめさせることで単元のまとめとする。 			
⑤評価			
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・ 意欲 ・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『史記』のもつ魅力を味わい、漢文の世界に興味・関心をもち、ロールプレイに積極的に参加しようとしている。 	観察 (グループ活動) (ロールプレイ) 点検 (脚本) 生徒による相互評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割を確認させ、積極的に活動に加わるように促す。 ・ 同じグループの生徒に声を掛けるように促す。
読む 能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、表現している。 	観察 (グループ活動) 点検 (脚本)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導をした際にグループ活動がどのような状況か声を掛ける。
知識 ・ 理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章中の重要語句の意味や重要句形について正しく理解している。 	観察 (机間指導) (発言) 定期考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導をした際に個別で声を掛ける。 ・ 授業後に個別に指導する。

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイをすることで、本文全体のイメージを掴むことができた。(成果) ・ グループでの発表を設けることで、一人一人が自分の役割を全うしようとし、その結果として理解が深まった。(成果) ・ 定期考査における平均点の上昇を期待したが、平均点は例年並みであり、今回の取組がペーパーテストに対して有効であると言えなかった。(課題)
アドバイス及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動主義に陥らないようにするため、生徒に付けさせたい力を明確にし、生徒の実態に合わせて指導内容を精選する必要がある。 ・ 学習内容をより深いものにするために、他教科との連携を図るとよい。
小中学校との系統性	① (中学・1年・C読むこと) ウ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 ② (中学・2年・伝統的な言語文化) (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

5 単元の学習概要 (全6時間)

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○本文をリズムに乗って音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師による範読を聞いた後に音読の練習を行う。(教師の後に付いて読む、個人で読む、ペアで読む。)【ア】 ・ 指名された生徒が黒板に書き下し文を書く。それを教師が添削して全体で確認する。【ア】 *留意点 ・ 既習の「四面楚歌」からこの場面に至るまでの流れを確認させる。	本文を正確に通読することができる。【知】 ↓ 机間指導 句形について定着しているかは定期考査で確認する。	机間指導をした際に個別で指導する。 ↓ 本文を正確に通読できるか授業の最初に確認する。
2	○第一段落前半の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで音読をして一段落の読みの確認をする。【ア】 ・ この場面の歴史的背景について学習する。【イ】 ・ 一段落を現代語訳する。【イ】 *留意点 ・ 一段落は句形にこだわらず、大まかな訳をするに留める。	一段落を正確に現代語訳することができる。【知】 ↓ 発言の観察	現代語訳をするのに苦慮している様子の生徒の様子を確認に行く。 ↓ 一段落の内容が大まかに把握できているか、ペアで確認させる。
3	○ロールプレイで用いる脚本を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「項王笑曰～」のロールプレイの仕方を教師の説明を聞いて理解する。【イ】 ・ グループに分かれて脚本を作る。【イ、ウ】 *留意点 ・ 脚本を作る際に、まずは文章を正確に現代語訳するように指示する。 ・ 項王の発言の箇所は必ず台詞として脚本に入れさせる。(事前にワークシートを準備する。)	文章を読んで、項王の発言の内容を的確に捉えることができる。【読】 ↓ グループ活動の観察 脚本の点検	グループ活動中や授業終了後に個別で声を掛ける。 ↓ 声を掛けた生徒の様子を注意して観察する。
4	○ロールプレイで用いる脚本を完成させ、グループで練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとで活動し、脚本を完成させる。【イ、ウ】 ・ グループごとでロールプレイの練習をする。【イ、ウ】 *留意点 ・ 活動の進捗の遅いグループに助言する。 ・ 授業時間内に脚本が完成しない場合は、次時までに完成させるよう指示する。	ロールプレイに積極的に参加しようとしている。【関】 ↓ グループ活動の観察 脚本の点検	グループ活動中や授業終了後に個別で声を掛ける。 ↓ 全グループ脚本が完成しているか確認する。

5 本時	○ロールプレイをした後重要句形について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> グループでロールプレイの最終確認をする。【イ、ウ】 グループごとにロールプレイの発表をし、お互いに評価し合う。【イ、ウ、エ】 文章の現代語訳を確認する。【ア、イ】 <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでの発表が終わった後に、工夫した点を述べさせる。 他のグループを評価する際には、非難するような内容にならないよう指導する。(評価表を事前に準備する。) 	<p>ロールプレイに積極的に参加しようとしている。【関】</p> <p>↓</p> <p>ロールプレイの観察生徒による相互評価現代語訳については、定期考査で確認する。</p>	<p>机間指導の際に個別で声を掛けて、現代語訳を正確に理解できているか確認する。</p> <p>↓</p> <p>現代語訳が正確にできているか復習する。</p>
6	○文章中の重要句形について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 文章中にある重要句形について確認する【ア】 登場人物の生き方を通して、自らの生き方を振り返る。【ウ、エ】 <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要句形の確認のため、演習を行う。 	<p>文章中の重要句形について正しく理解することができる。【知】</p> <p>↓</p> <p>机間指導 定期考査</p>	<p>重要句形について一緒に確認する。</p> <p>↓</p> <p>授業の冒頭で今回の単元の総評をする。</p>

6 学習指導案 (第5時)

本時の位置	5時間目 (全6時間)		
本時の学習目標	<p>ア グループ活動に積極的に参加し、漢文の世界に対する興味を深めようとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>イ 文章中の重要語句の意味や重要句形について正しく理解することができる。(知識・理解)</p>		
事前の準備	<p>①脚本のワークシート</p> <p>②自己評価表</p> <p>③相互評価表</p> <p>④グループ活動を普段の授業から行っておく。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	□前時までの復習と本時の課題を確認する	<p>①前時までの学習内容と本時の流れを確認する。</p> <p>②グループごとにロールプレイの最終確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の流れを伝える際、本時の目標も確認する。 机間指導をして各グループの様子を観察する。
展開 30分	□グループごとにロールプレイの発表をして、相互に評価し合う。	<p>グループごとにロールプレイの発表をし、お互いに評価し合おう。</p> <p>③グループごとにロールプレイの発表をする。(発表後に工夫した点を述べる。)</p> <p>④ロールプレイの相互評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価の際には他のグループの発表の良い点を一つは書くようにし、非難するような内容にならないことを確認する。 <p>目標アに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] グループ活動に積極的に参加し、漢文の世界に対する興味を深めようとしている。</p> <p>[方法] ・発表の観察 ・脚本の点検 [状況Cの生徒への手立て] ・授業終了後に個別で声を掛ける。</p>
	□文章の現代語訳を確認する。	<p>本文の現代語訳の確認をしよう。</p> <p>⑤配布されたプリントで、現代語訳を各自確認する。</p>	<p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 文章中の重要語句の意味や重要句形について正しく理解し、現代語訳を確認することができる。</p> <p>[方法] ・ノートの点検 ・定期考査の分析 [状況Cの生徒への手立て] ・ノートを点検した後に個別で声をかけ、理解できているか確認する。</p>

まとめ 10分	□本時のまとめと自己評価をする。	⑥グループごとで活動の振り返りをする。 ⑦本時の自己評価をする。 ⑧次時の授業内容について確認する。	・時間に余裕があるようなら、グループごとの振り返りを口頭で発表させる。 ・次時の授業内容について伝える。
------------	------------------	----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------